

令和5年度 高山市誰にもやさしいまちづくり推進会議 会議録（要旨）

日 時：令和6年3月27日（水） 14時00分～16時00分

場 所：高山市役所4階 特別会議室

出席者：高山市誰にもやさしいまちづくり推進会議委員 8名

（欠席者6名） ※別紙名簿のとおり

総合政策課課長、総合政策課室長、総合政策課係長、秘書交流課課長、  
福祉課課長、学校教育課課長、都市計画課景観公園緑地係係長、  
観光課誘客戦略係係長、観光課海外戦略係係長、総合政策課担当

---

会議内容（次第）

1. 開会
2. 市あいさつ（総合政策課課長）
3. 西山会長あいさつ
4. 議事（議長：西山会長）

(1) 誰にもやさしいまちづくりの見直しに係る取組みについて

資料に基づき事務局が報告

井ノ下委員

- ・学びの多様化教室「にじ色」について、定員15名ということだが、今後、入室希望者が増えた場合はどうするのか。

学校教育課長

- ・「にじ色」教室に入室するには、審査委員会を開き、その生徒がこの教室で学ぶことが本当に良いかどうかを判断している。4月からは、定員15名のところ12名が入室する予定だが、今後希望者が増えていった場合は、物理的な問題もあるため、今後の課題としてとらえている。

#### 議長（西山会長）

- ・大学で教えている立場からすると、この「にじ色」教室のカリキュラムは素晴らしい。勉強だけやってきて大学に進学した子は、なかなか伸びない子も多い。ここでの成果みたいなものを他の学校においても共有できたら良い。

#### 学校教育課長

- ・ここでの成果を色々な学校にフィードバックしていくようなことを大事にしていきたい。

#### 松浦委員

- ・観光施設のバリアフリーモニターツアーについて、実施期間が5月から11月となっている。冬季の積雪期は、車椅子やベビーカーが使用できないことがあり、また足の不自由な人は、歩きにくいと思う。冬季も観光客は多いため、その時期も調べた方が良いと思う。

#### 観光課誘客戦略係長

- ・初めてのバリアフリーモニターツアーということで、今回は夏季から秋にかけて現地調査を行い、結果をまとめていく予定である。今後冬季の対応についても検討していきたい。

#### 議長（西山会長）

- ・モニターは、市外の方は対象外としているのか。

#### 観光課誘客戦略係長

- ・今回のモニターツアーは、まずは福祉部局と連携しながら、市内の団体の方にご協力をいただきながら、実施したいと考えている。今後は、市外も対象にしていければと思う。

#### 糸田委員

- ・今回の資料を見ると、多文化共生とか在住外国人という言葉がたくさん入っていて、以前とはすごく変わってきたなと思いきすごく嬉しい。  
今の高校生に多文化共生とは何かと聞いたら、ほとんどの高校生は英語を使って外国人と交流することと答える。実際に高山市にいる在住外国人は、もちろん英語を話す方もいるが、市内の観光施設や工場等で働いている技能実習生の方は、ベトナム、タイ、カンボジアなど英語を話さない方のほうが圧倒的に多い。こんなに多くの外国人が働いていることを子どもたちは知らないと思う。外国人とい

ったら、街にあふれている外国人観光客のことだと思う。子どもたちへ、自分たちが大きくなったら、外国人と一緒に働く仲間になっていくことがあるということ、どのように伝えていくのか。

#### 秘書交流課長

- ・教育委員会と連携して、異文化の触れ合いや、様々な情報を共有していきたい。令和6年度から、外国人相談窓口を設置し、在住外国人に対していろいろな困りごとに対応していく予定である。在住外国人の困りごとを把握していきたい。

#### 窪田副会長

- ・やさしいまちづくりという点について、高山市の人口は減少し、過疎化も進んでいる。働き手不足、町内会での人材不足、少子化による小学校の廃止など人口減少が進む中で、これからのまちづくりができていくのか。

#### 議長（西山会長）

- ・今のご意見について、特に関係するのが資料の2番「協働のまちづくり」人材育成への支援だと思う。人口減少となると、対応できる人材を育成するしかないかと思う。（一財）ひだ財団との連携で、地域人材の育成を図るとあるが、これについて教えてほしい。

#### 総合政策課長

- ・人口減少の中でも、15～64歳の生産年齢人口の減少によって地域の担い手が減っており、今後は、特に人材育成が大事になっていく。伴走支援を得意としている（一財）ひだ財団を介して、より手厚いサポートを交えながら、まちづくり協議会の事業支援（講師招聘）や、研修に対する支援を、今までとは違った形で支援していきたい。

#### 議長（西山会長）

- ・認定証交付後5年毎の認定基準適合確認について教えてほしい。

#### 総合政策課係長

- ・令和4年度に「誰にもやさしいまちづくり推進指針」の見直しを行い、その中で認定証交付後5年ごとに認定基準適合を確認することとし、順次進めている。認定時の適合確認チェック表や図面を事業者へ送付し、事業者の方がセルフチェックを行うことで確認作業を進めている。

#### 野中委員

- ・先ほど、人材不足の話があったが、介護の現場も人材不足であり、市内事業所でも廃止になった施設があるほか、外国人材を受け入れたりしている状況である。資料の13番「認知症啓発事業を推進する」とあるが、どのように啓発事業を推進するのか教えてほしい。

#### 福祉課長

- ・9月の強化月間に合わせて、今までよりも啓発事業を強化していくと聞いている。具体的にどういった形でやっていくかについては、担当の高年介護課から事業者の方へは周知させていただく。

#### 野中委員

- ・最近、若年性認知症の方が多く、企業の中でも理解がなかなか十分でないところがあり、仕事ができなくなったりしている。働いている世代の方にも理解していただけるようなことを進めていただけると有難い。

#### 総合政策課長

- ・市役所でも、認知症の啓発として、庁舎ライトアップや、垂れ幕、オレンジガーデニングプロジェクトなどの実施を予定している。

#### 林委員

- ・原山市民公園での複合遊具等整備について、交通手段、完成予定、利用料は無料か有料か、冬季利用はどうするのか教えてほしい。また、設置遊具に関するプロポーザルで市外企業が契約候補者となっているが、その整備に地元企業に関わることはできるのか。

#### 都市計画課係長

- ・複合遊具を設置するにあたり、色々な公園をピックアップして検討したが、中でも駐車場施設がそろっている原山市民公園を選定した。完成予定は令和7年4月共用開始を予定している。利用料は無料、冬季は雪が降ると遊具は使えなくなるが、雪が積もった時はそり遊びをすることも可能である。遊具整備については、仕様書において地元企業に関わることを明記している。

#### 長谷川委員

- ・原山市民公園での複合遊具等整備について、木製遊具はメンテナンスを定期的に

行わないと、様々な事故が所々で起きている。整備するだけでなく、その後の維持管理をどうしていくのか教えてほしい。

#### 都市計画課係長

- ・公園遊具については、毎年点検を行っており、修理すべき箇所は修理している。新しく設置する複合遊具についても、遊具の点検指針に基づいて適切に行っていきたい。

#### 糸田委員

- ・(一財) ひだ財団が果たす役割、伴走支援とはどういうものか教えてほしい。

#### 総合政策課長

- ・今まで市は活動団体に補助金を出すことがあるが、その後のフォローの面で弱い部分があったととらえている。財団を介することによって、例えば活動中に困ったことに対して助言するなど、様々な面でサポートを行い相乗効果が生まれることを期待している。

#### 糸田委員

- ・北海道東川町との連携について、東川町の日本語学校で学んだ外国人が高山市で働くと聞いたが、多文化共生の面ではどう考えているか。

#### 総合政策課長

- ・北海道東川町は人口8千人ほどの小さな町だが、人口が増え続けている全国的にみても稀な自治体である。様々な取り組みをされている中で、町立で日本語学校を経営されており、今回の連携の一環として、その学校を卒業された7名の外国人が高山市の事業所で働くこととなった。単なる労働という視点だけではなく、暮らしやすい生活のサポートや、市民との交流など、多文化共生という視点も大事にしていきたい。

#### 議長(西山会長)

- ・資料の29番、障害者差別解消法について、令和6年度予算で35千円とあるが、その内容について教えてほしい。

#### 福祉課長

- ・事業所向けの啓発チラシ作成費用である。チラシ以外にも、市広報などで啓発していきたい。

野中委員

- ・資料の49番、認知症高齢者等のGPS機器について、機器が結構大きくて持ち運びしにくいことや、電波が切れるなど使いにくい問題などがあり、飛騨市では、利用者が少なく取り止めたと聞いた。今後も高山市は続けるのか。

福祉課長

- ・令和4年度の機器貸出し実績は22人と聞いている。今後の方向性については、高年介護課に伝え、後日報告する。

糸田委員

- ・資料の57番、高山城VRを積極的に活用するとあるが、これが誰にもやさしいまちづくりにどう関係するのか教えてほしい。

総合政策課長

- ・例えば、足の不自由な人が観光施設をまわることができない場合など、最新技術のVRを活用して視覚的に体験することができるといった活用が考えられる。

野中委員

- ・資料49番 「国、県が行う介護ロボット等の活用に対する助成制度の周知」について、現場は本当に人材不足のため、夜間の見守りロボットがあれば働く方の負担軽減になると思うが、実際にそのロボットを導入するには、その機械を使う人材が必要であり、その人材の余裕がない。今回の介護報酬改定で利用者とオンラインモニタリングの面談が可能になったが、利用者は高齢者のため、実際にZOOMなど使えるか現実離れしている。介護ロボットや、オンラインモニタリングなど便利だと思うが、実際の介護の現場では、そこに踏み出す一歩が難しい。

議長（西山会長）

- ・技術に対するハードルが高い。福祉事業者は、DXとはそもそも何か、分かってないところが多い。助成制度の周知は丁寧にやってほしい。

糸田委員

- ・交通について、高山市で働いている外国人はバスで職場まで行っている方も多し。外国人観光客もバスを利用している方が多く、バスの乗り方等多言語であると分かりやすいと思う。

議長（西山会長）

- ・バス停の表示など、ローマ字表記の方が外国人には分かりやすいという意見もある。

議長（西山会長）

- ・障がいをお持ちの方と一緒に歩くと、休憩施設があった方がいいと聞く。村半や大政などの居場所が大事だと思うが市の考えは。

総合政策課長

- ・中心市街地には、村半や大政、まちの博物館や体験交流館など、休憩もできるし、中をご覧いただくこともできる施設があり、外国人を含め多くの方が利用されている。まちなかを周遊するという点においては、ベンチなど少し足を休めていただくようなところも必要だと考える。

議長（西山会長）

- ・学生が市街地を少し離れると休憩場所はないと言っていたため、参考にさせていただきたい。

野中委員

- ・資料の37番、39番の福祉避難所について、介護療養型の高山厚生病院が廃院となって、重度の要介護者の行き場所が難しいような現状となっている。在宅で酸素吸入や、カテーテルの方も増えてきており、災害があった時に、こういう方がどう避難するのか、すごく難しい。やはり災害が起きた時は、地域の方の力がすごく大切になると思う。今までより、自分たちの地域に重度の方、動けない方が増えているという認識をもっといただけると有難い。

福祉課長

- ・高山市では、避難行動要支援者名簿を作成しており、町内会へその名簿を提供して、災害が起きた時に近隣住民や町内会で助け合い避難所まで支援するような取り組みを進めている。今年の1月末現在で1,800人ほどの登録がある。

糸田委員

- ・ペットを飼っている人は、ペットを家族と思っている。災害があった場合、ペットを連れてどう避難するのか、防災にもその視点を入れてほしい。

#### 松浦委員

- ・中学生や高校生には「にじ色」教室があったり、村半があったりと、頑張る若者には居場所があるが、高校中退した方や、中学校卒業して高校行かずにひきこもりとなった方など、そういった若者の居場所の確保が難しいと感じている。障がい者であれば障がい者の施策があったり、子どもに対しては、子どもに対する施策があったりするが、発達障がいなど、社会の中で生きにくい方への取組みはなかなか進んでいないと感じている。

#### 福祉課長

- ・現在、障がい者福祉総合計画の見直しを行っている。今のご意見のように、発達障がい等何らかの理由でなかなか外に出られない方が多いという現状を受け、計画の中では、そういった方へ分野横断的に1つのカテゴリーにとらわれることなく、様々な分野が連携しながら支援をしていきたいと考えている。

#### 5. その他

意見なし

#### 6. 閉会

高山市誰にもやさしいまちづくり推進会議委員名簿

(敬称略)

任期 令和5年3月1日～令和7年2月28日

区分		分野	団体名(推薦依頼先)	役職	委員氏名	備考
有識者等	1	有識者 (大学)	東京都市大学	准教授	西山 敏樹	
	2	有識者 (多文化共生)	岐阜県多文化共生推進員		糸田 恵子	
	3	教育	高山市教育委員会	教育委員	野崎 加世子	欠席
市民代表	4	地域福祉	(福)高山市社会福祉協議会	会長	窪田 哲	
	5	身体障がい	高山身体障害者福祉協会 高山支部	副支部長	高堂 久子	欠席
	6	高齢	高山地域介護保険事業者連絡協議会	副会長	野中 康代	
	7	発達障がい	飛騨圏域発達障がい支援センター	支援員	松浦 有喜子	
	8	環境	(一社)ふるさと体験飛騨高山	理事	渡辺 豊秋	欠席
	9	伝建・町並	景観町並保存連合会	副会長	日下部 勝	欠席
事業者	10	医療	高山市医師会	副会長	周 信夫	欠席
	11	観光	(一社)飛騨・高山観光コンベンション協会	副会長	井ノ下 雄志	
	12	建築	(公社)岐阜県建築士会飛騨支部	副支部長	林 芳忠	
	13	交通	濃飛乗合自動車(株)	管理部長	長野 猛	欠席
関係行政機関	14	技術開発	岐阜県生活技術研究所	所長	長谷川 良一	